

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

ビューティフル・マインド

2002 (平成14) 年5月12日鑑賞

Data

監督: ロン・ハワード

出演: ラッセル・クロウ/ジェニフ

アー・コネリー/エド・ハリ

ス/ポール・ベタニー

👁️👁️ みどころ

実在の天才数学者ナッシュをあのラッセル・クロウが演ずる。「ゲーム理論」の研究と米ソ冷戦下での「暗号解読」の極秘任務の中、ナッシュは次第にその精神に障害が……。そして最愛の妻の支えの下に母校プリンストン大学に戻り長い病気との闘いが始まる。そして遂にノーベル賞受賞へ。2001年度第74回アカデミー賞優秀作品賞を獲得した心あたたまる名作。わかっていると思わず涙が……。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<天才数学者ナッシュ>

1947年ジョン・フォーブス・ナッシュ・ジュニア (ラッセル・クロウ) は、ニュージャージー州にあるプリンストン大学大学院数学科に、カーネギー奨学生として入学。「すべてを支配する真理、真に独創的なアイデアを見つけたい」とナッシュは、変人扱いされながらも研究に没頭。

友達ルームメイトのチャールズ (ポール・ベタニー) ただ一人しかいなかった。

ある日、ナッシュはクラスメイトとのパーティーで3人の女子学生と出会う。3人のうちブロンドの1人はとびきりの美人で、男子学生の注目の的。したがって、彼女の「奪い合い」になれば、男たちは結局誰もが失敗するだろう。

その時ナッシュにひらめいたのは、「もし男たちが自分の利益とグループ全体の利益を同時に追求して、ブロンドをあきらめてほかの2人の女性を口説いたなら、誰もがいずれかの女性を手に入れることができる」という理論。

これが、天才数学者の頭脳によって、「ナッシュの均衡理論」(ゲーム理論)として数式化され、後にノーベル経済学賞を受賞することになった理論だ。

ナッシュの功績が認められ、ナッシュは指導教授の推薦によって、切望していたウィーラー研究所へ入所。そこでの研究生活に没頭する。しかし時代は米ソ冷戦時代。多くの数学者がその知識を活かして暗号解読に献身したが、ナッシュはその分野でも際立った才能を発揮した。そこに目をつけたのが国防省の諜報員パーチャー（エド・ハリス）。パーチャーは、密かにナッシュに接近し、ソ連の核の脅威に対抗するため、暗号解読の極秘任務をナッシュに依頼、ナッシュはこれを承諾した。

＜天才と狂気は紙一重＞

ナッシュは講師として授業をこなすことは退屈で嫌いだだったが、それでもやっているといいことがあるもの。すなわち、多くの人が「変人」としてながめ、ナッシュの内面まで入りこもうとしないにもかかわらず、ナッシュを嫌がらないばかりか、逆にナッシュの行動に興味を示し、あたたかくこれを見守ってくれる聴講生のアリシア（ジェニファー・コネリー）に出会えたのだ。

アリシアとの時間の中にはじめて「心の癒し」を覚えたナッシュは、彼女と結婚。子供も生まれ、幸せな家庭が築かれようとしていた。ところが……。ナッシュの極秘任務の重大性はますます増大していた。家庭を守るため、極秘任務から身を引こうとしたナッシュに対して、さまざまな圧力がかけられた。パーチャーは常にナッシュを監視し、ナッシュの側を離れることはなかった。そればかりかパーチャーとの接触が「敵」側に見破られたため（？）、現実的な身の危険さえも体験する羽目となった。幸せな家庭に守られながら研究生活を続けていこうとするナッシュにとって、この極秘任務のプレッシャーはあまりにも大きかった。その恐怖の中でナッシュの精神は次第に錯乱し、現実と夢（幻覚）との境目があやしくなっていく。幻覚として現れるのはいつもプリンストン大学時代のルームメイトのチャールズとその姪マーシーの2人。そして諜報員のパーチャー。

夢か現実かの境目がわからなくなる中で、パーチャーとの確執と格闘を繰り返していくうち、ナッシュは本当に精神に障害をきたすことになり、精神病院で強制的な治療を受けざるを得なくなってしまった。

＜「最愛の人」がいてくれてこそ＞

これを救ったのは最愛の妻アリシア。アリシアはナッシュの精神の安定とその立ち直りのため、献身的な努力を続ける。そしてベストの選択として選んだ途は、ナッシュを母校プリンストン大学で、静かな研究生活を送らせること。そのため、かつてのプリンストン大学でのナッシュのライバルであり、今はプリンストン大学の学部長になっているハンセン（ジョシュ・ルーカス）にこの旨を依頼。ハンセンは、このナッシュの申し出を快く受け入れた。

ここから再びナッシュの静かな研究生生活が始まるとともに、病气（幻覚）との長い闘いも始まった。

こんな生活を続けているうち、いつしか「ゲーム理論」の発見者ナッシュの下には、プリンストン大学の若い学生たちが集まってくる。そして遂にノーベル経済学賞受賞の通知。授賞式でのナッシュのあいさつは短いもので、静かな、とつとつとした喋りだが、これを聞いていると思わず涙がポロポロ出てくるのを止めることができない感動的なものだ。

とにかく前評判通りのすばらしい作品で、2001年度の第74回アカデミー賞8部門にノミネートされ、作品賞、監督賞、助演女優賞、脚色賞の4部門を受賞したのは当然と納得できる出来ばえとなっている。

<今が旬！ラッセル・クロウの輝き>

ナッシュを演ずるラッセル・クロウは、00年の『グラディエーター』でアカデミー賞主演男優賞を獲得したが、97年の『L. A. コンフィデンシャル』や99年の『インサイダー』でもすばらしい演技を見せた、今、最も輝いている俳優だ。

『グラディエーター』での筋肉モリモリのたくましい兇闘士マキシマスという「動の役」から一変して、『ビューティフル・マインド』では精神的病を抱えた天才数学者という「静の役」を演ずる。この役は、『インサイダー』での、タバコの有害性を内部告発するタバコメーカーの副社長ワイガンドの役と通じるもので、役者としての演技力が要求されるとともに、またその能力を最も発揮できる難しい役どころだ。

そして、さすがにラッセル・クロウの演技はすばらしいの一言。ナッシュの役になりきり、学生時代の「変人」ナッシュから、暗号解読に執念をもやすナッシュ、幻覚にもだえ苦しむナッシュ、妻の協力の下に静かな研究生生活を楽しむナッシュ、そしてノーベル賞授賞式の晴れ舞台上でスピーチするナッシュなど、極めて複雑なナッシュの人物像をみごとに演じている。

そしてその周りを固めるナゾの諜報員バーチャーやルームメイトのチャールズもいい味を出している。またアリシアを演ずるジュニファー・コネリーは、苦悩する天才数学者の妻の役を完璧にこなしており、助演女優賞受賞にふさわしい熱演だ。

<アカデミー賞作品賞ハンザイ！>

日本での公開が2002年5月と遅れたため、アカデミー賞作品賞の行方がどうなるかと心配していたが、私の期待と予想通り、3月に発表された第74回アカデミー賞において、『ビューティフル・マインド』が作品賞と監督賞、脚色賞を獲得したことは、まさに作品そのものの出来が評価されたことであり、率直に喜びたい。ラッセル・クロウも主演男優賞にふさわしい演技だが、主演男優賞の連続受賞は少し厚かましいうえ、あまりにも多

くの賞を総ナメするのめどうか、と考えれば妥当なところか・・・。

2002 (平成14) 年6月12日記